

歴史・人類学サブプログラム

専門科目(歴史学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBADA0	日本史研究演習IA	2	1.0	1	春AB	応談		山澤 学, 三谷 芳幸, 伊藤 純郎, 中野目 徹, 朴 宣美	課程博士論文作成のための1年次対応の演習である。修士論文を基礎として、より高次の実証性と理論性の獲得を図る。日本史学研究を行うにあたり、高度な実証性を身につけるとともに、新たな研究視角の獲得を目指し、これらの達成を通じて基礎的な研究能力の向上を図る。受講者は、学期を通じて順次、自己の研究の方向性について盛り込んだ研究報告を行い、討論を行う。	
OBBADA1	日本史研究演習IB	2	1.0	1	秋AB	応談		山澤 学, 三谷 芳幸, 伊藤 純郎, 中野目 徹, 朴 宣美	課程博士論文作成のための1年次対応の演習である。博士論文の構想を広げるとともに、研究史上への位置づけをいっそう明確化し、博士論文の基礎となるべき学術論文作成を図る。日本史学研究の方法論を深化させ、自己の研究の多面的な展開を図る。これらを通じて、博士論文の作成に必要な能力を涵養していく。受講者は、学期を通じて順次、学術論文作成のための基礎報告を行ない、討論を行う。	
OBBADA2	日本史研究演習IIA	2	1.0	2					課程博士論文作成のための2年次対応の演習である。学術雑誌投稿用の論文作成の上に、より高次に理論的に整合する課題設定を行い、日本史学研究のさらなる高度化を図る。受講者自らが、研究の基礎とする方法論と研究視角を再考し、研究の質全体の向上を目指し、博士論文の作成計画を前進させていく。受講者は、学期を通じて順次、新たな方法論と研究視角を盛り込んだ報告を行い、討論を行う。	2020年度開講せず。
OBBADA3	日本史研究演習IIB	2	1.0	2					課程博士論文作成のための2年次対応の演習である。博士論文作成のための基礎となるべき課題を、自らの全体構想のなかに位置づけた学術論文の作成を図る。明解かつ丁寧な実証のうえに、いっそうの理論化を図った学術論文を作成しつつ、新たな知見と方法論による博士論文作成計画を具体化させていく。受講者は、学期を通じて順次、学術論文作成の構想を報告し、討論を行う。	2020年度開講せず。
OBBADA4	日本史研究演習IIIA	2	1.0	3					課程博士論文作成のための3年次対応の演習である。博士論文の完成に向け、実証内容の深化のうえに、研究上新たな問題視角と方法、知見を備えた博士論文の全体概要を提示する。日本史学研究の深化を図り、博士論文の全体構想を明確化し、研究の基盤となるべき実証性を確認しつつ、研究史上に明解に位置づけていく。受講者は、学期を通じて順次、報告を行なう。その後の討論に基づき、博士論文の完成を図る。	2020年度開講せず。
OBBADA5	日本史研究演習IIIB	2	1.0	3					課程博士論文作成のための3年次対応の演習である。自らの日本史学研究の基軸となる研究の全体構想をふまえ、実証内容の一層の深化のみならず、学術論文としての理論性を高め、研究上新たな地平を切り開きうるものとしての博士論文の質的な充実をよりいっそう図る。受講者は、学期を通じて順次、論文完成度の向上を目指し、報告を行う。その後の討論に基づき、博士論文を完成させていく。	2020年度開講せず。
OBBADC0	東洋史研究演習IA	2	1.0	1	春AB	応談		上田 裕之, 丸山 宏, 山本 真, 岩田 啓介	課程博士論文作成のための1年次生を対象とする春学期の研究演習。関連する隣接諸科学の知識の習得、新たな史料の発掘とその利用について指導する。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて研究を進め、本演習において1回ないし複数回の研究報告を行い、東洋史学領域全教員から今後の研究について指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	
OBBADC1	東洋史研究演習IB	2	1.0	1	秋AB	応談		上田 裕之, 丸山 宏, 山本 真, 岩田 啓介	課程博士論文作成のための1年次生を対象とする秋学期の研究演習。研究テーマに関する先行研究の整理、基本的史料の利用方法等について、基礎的演習を行う。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて研究を進め、本演習において1回ないし複数回の研究報告を行い、東洋史学領域全教員から今後の研究について指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBADC2	東洋史研究演習IIA	2	1.0	2					課程博士論文作成のための2年次生を対象とする春学期の研究演習。博士論文の内容構成、史料の利用法、論文の全体的な構想の修正と補強に関して、具体的な指導を行う。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて研究を進め、本演習において1回ないし複数回の研究報告を行い、東洋史学領域全教員から今後の研究について指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	2020年度開講せず。
OBBADC3	東洋史研究演習IIB	2	1.0	2					課程博士論文作成のための2年次生を対象とする秋学期の研究演習。博士論文の内容構成、史料の利用法、論文の全体的な構想の修正と補強に関して、より実践的な指導を行う。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて研究を進め、本演習において1回ないし複数回の研究報告(博士論文構想発表を含む)を行い、東洋史学領域全教員から博士論文の計画について指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	2020年度開講せず。
OBBADC4	東洋史研究演習IIIA	2	1.0	3					課程博士論文作成のための3年次生を対象とする春学期の研究演習。博士論文の完成にむけて、具体的な指導を行う。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて博士論文の執筆を進め、本演習において1回ないし複数回の研究報告(博士論文中間発表を含む)を行い、東洋史学領域全教員から博士論文の完成を見据えて指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	2020年度開講せず。
OBBADC5	東洋史研究演習IIIB	2	1.0	3					課程博士論文作成のための3年次生を対象とする秋学期の研究演習。博士論文の進捗状況に応じて、より実践的な指導を行う。履修者はあらかじめ指導教員の指導・助言を受けて、自身の関心・方法に基づいて博士論文の執筆を進め、本演習においてその進捗状況を報告し、東洋史学領域全教員から博士論文を完成させるための指導・助言を受けるとともに、その他の履修者とも議論を行う。	2020年度開講せず。
OBBADE0	西洋史研究演習IA	2	1.0	1	春AB	応談		柴田 大輔, 山田 重郎, 佐藤 千登勢, 津田 博司, 村上 宏昭	本授業では西洋史学領域全教員の出席のもと、受講生による研究発表と、それに関するディスカッションでもって進められる。その際、博士論文に向けての研究の事前準備を主たる目的としつつ、研究テーマの設定から使用する一次史料の調査を行う。	
OBBADE1	西洋史研究演習IB	2	1.0	1	秋AB	応談		柴田 大輔, 山田 重郎, 佐藤 千登勢, 津田 博司, 村上 宏昭	本授業では西洋史学領域全教員の出席のもと、受講生による研究発表と、それに関するディスカッションでもって進められる。その際、博士論文に向けての研究の事前準備を主たる目的としつつ、設定したテーマに沿って先行研究の渉猟を進める。	
OBBADE2	西洋史研究演習IIA	2	1.0	2					本授業では西洋史学領域全教員の出席のもと、受講生による研究発表と、それに関するディスカッションでもって進められる。その際、博士論文に向けての研究の事前準備を主たる目的としつつ、学術論文として公表可能な研究成果を挙げるための準備作業の場として位置づけられる。	2020年度開講せず。
OBBADE3	西洋史研究演習IIB	2	1.0	2					本授業では西洋史学領域全教員の出席のもと、受講生による研究発表と、それに関するディスカッションでもって進められる。その際、博士論文に向けての研究の事前準備を主たる目的としつつ、その全体的な構成を組み立てる作業を行う。	2020年度開講せず。
OBBADE4	西洋史研究演習IIIA	2	1.0	3					本授業は西洋史学領域全教員の出席のもと、受講生による研究発表と、それに関するディスカッションでもって進められる。その際、博士論文に向けての研究の事前準備を主たる目的としつつ、各章の概要を研究発表として行う。	2020年度開講せず。
OBBADE5	西洋史研究演習IIIB	2	1.0	3					本授業は西洋史学領域全教員の出席のもと、受講生による研究発表と、それに関するディスカッションでもって進められる。その際、博士論文に向けての研究の事前準備を主たる目的としつつ、その全体の概要を研究発表として行う。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBADG0	歴史地理学研究演習 IA	2	1.0	1	春AB	応談		中西 僚太郎	1年次前期段階に応じた歴史地理学分野の博士論文作成のための研究指導を行うことを目的とする。修士論文を基礎として、理論的・実証的により高度で、独創性のある研究能力を涵養する。受講者は、博士論文作成を意識した研究報告を行い、討論を行う。	
OBBADG1	歴史地理学研究演習 IB	2	1.0	1	秋AB	応談		中西 僚太郎	1年次後期段階に応じた歴史地理学分野の博士論文作成のための研究指導を行うことを目的とする。修士論文を構想するとともに、従来の研究史との関係を明確化し、博士論文の基礎となる学術論文の作成を進める。受講者は、博士論文作成を意識した研究報告を行い、討論を行う。	
OBBADG2	歴史地理学研究演習 IIA	2	1.0	2					2年次前期段階に応じた歴史地理学分野の博士論文作成のための研究指導を行うことを目的とする。研究の基礎となる方法論と研究視角を再考し、独創性のある研究能力の獲得を進める。受講者は、博士論文作成を意識した研究報告を行い、討論を行う。	2020年度開講せず。
OBBADG3	歴史地理学研究演習 IIB	2	1.0	2					2年次後期段階に応じた歴史地理学分野の博士論文作成のための研究指導を行うことを目的とする。博士論文の構想を具体化するとともに、従来の研究史との関係をいっそう明確化し、博士論文の基礎となる学術論文の作成をさらに進める。受講者は、博士論文作成を意識した研究報告を行い、討論を行う。	2020年度開講せず。
OBBADG4	歴史地理学研究演習 I11A	2	1.0	3					3年次前期段階に応じた歴史地理学分野の博士論文作成のための研究指導を行うことを目的とする。博士論文の完成に向け、博士論文の全体像を提示する。博士論文を研究史上に明解に位置づけ、歴史地理学研究の深化を図る。受講者は博士論文の中間報告を行い、討論を行い、博士論文の完成を図る。	2020年度開講せず。
OBBADG5	歴史地理学研究演習 I11B	2	1.0	3					3年次後期段階に応じた歴史地理学分野の博士論文作成のための研究指導を行うことを目的とする。博士論文の全体的な論理構成を明確にし、かつ独創性のある研究を進める。受講者は、博士論文の中間報告を行い、最終的に博士論文を完成させる。	2020年度開講せず。
OBBADG6	歴史地理学研究実習A	3	2.0	1-3		夏季休業中	集中	中西 僚太郎	博士後期課程段階に応じた歴史地理学分野での高度な学術論文・学術報告を作成できる調査能力を養うことを目的とする。特定地域をフィールドに選び、野外での観察や調査の方法を実地で指導する。具体的には、調査の計画立案から、自然景観および人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの方法を実地で指導する。受講生の積極的・主体的な取り組みを重視し、フィールドでの学習の過程で、自ら問題を見出すこともねらいとする。	02DC576と同一。
OBBADG7	歴史地理学研究実習B	3	2.0	1-3	秋C	集中		中西 僚太郎	博士後期課程段階に応じた歴史地理学における野外実習結果の分析方法とまとめ方を指導し、歴史地理学分野での高度な学術論文・学術報告を作成できる能力を養うことを目的とする。具体的には、歴史地理学研究実習Aにおける自然景観・人文景観の観察、土地利用の調査、石造物の調査、建築物の調査、公文書ならびに私蔵文書史料の調査、聞き取り調査などの結果を、どのように分析・表現して、学術論文・学術報告としてまとめることができるのかを指導する。授業の最後に受講生は調査結果のレポートを作成して提出する。	02DC577と同一。

専門科目(人類学分野)

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBADJ0	先史学・考古学研究演習 IA	2	2.0	1	春AB	応談		谷口 陽子, 三宅 裕, 滝沢 誠, 前田 修	課程博士論文作成のための1年次対応の演習である。研究テーマの具体的な設定を目標とし、受講生には最新の研究成果について報告を求め、毎回の授業では、受講生1~2名が研究報告をおこなう、その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBADJ1	先史学・考古学研究演習IB	2	2.0	1	秋AB	応談		谷口 陽子, 三宅裕, 滝沢 誠, 前田修	課程博士論文作成のための1年次対応の演習であり、応用的な実践研究を目的とする。研究テーマの具体的な設定を目標とし、受講生には最新の研究成果について報告を求める。毎回の授業では、受講生1~2名が応用的な研究報告をおこない、その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	
OBBADJ2	先史学・考古学研究演習IIA	2	2.0	2					課程博士論文作成のための2年次対応の演習である。研究テーマにかかわる資料の分析と考察を目標とし、受講生には最新の研究成果について報告を求める。毎回の授業では、受講生1~2名が研究報告をおこない、その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	2020年度開講せず。
OBBADJ3	先史学・考古学研究演習IIB	2	2.0	2					課程博士論文作成のための2年次対応の演習であり、応用的な実践研究を目的とする。研究テーマにかかわる応用的な資料の分析と考察を目標とし、受講生には最新の研究成果について報告を求める。毎回の授業では、受講生1~2名が研究報告をおこない、その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	2020年度開講せず。
OBBADJ4	先史学・考古学研究演習IIIA	2	2.0	3					課程博士論文作成のための3年次対応の演習である。博士論文の構成を確定することを目標とし、受講生には博士論文の中心論議について報告を求める。毎回の授業では、受講生1~2名が研究報告をおこない、その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	2020年度開講せず。
OBBADJ5	先史学・考古学研究演習IIIB	2	2.0	3					課程博士論文作成のための3年次対応の演習である。博士論文の完成を目標とし、受講生には博士論文の結論について報告を求める。毎回の授業では、受講生1~2名が研究報告をおこない、その内容を受けて、先史学・考古学領域全教員と受講生による全体討議をおこなう。	2020年度開講せず。
OBBADJ6	先史学・考古学研究実習	3	4.0	1-3	秋C	集中		谷口 陽子, 三宅裕, 滝沢 誠, 前田修	発掘調査や測量調査などのフィールドワークに主導的な立場で参加する。調査計画の立案から調査の円滑な遂行、調査成果の取りまとめまでの一連の方法を修得することを目標とする。あわせて、フィールドワークに参加している博士前期課程の大学院生及び学群生を指導し、調査指導者として必要な実践的能力を養うことを目標とする。	02DC64Dと同一。
OBBADL0	民俗学・文化人類学研究IA	2	1.0	1	春AB	応談		武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰, 木村 周平	1年次生を対象とする中級セミナー。民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、学生各自が博士論文の研究課題に沿って文献発表をする。博士論文のテーマ選定を目標として、論文執筆に関わる指導を行う。	
OBBADL1	民俗学・文化人類学研究IB	2	1.0	1	秋AB	応談		武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰, 木村 周平	1年次生を対象とする中級セミナー。民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、学生各自が博士論文の研究課題に即して調査地に関する情報を分析し、発表する。博士論文に向けての研究計画・調査計画に関わる指導を行う。	
OBBADL2	民俗学・文化人類学研究IIA	2	1.0	2					2年次生を対象とする中級セミナーの後半。民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、学生各自がフィールドワークで収集した資料を整理・分析して発表する。博士論文の完成を目標として、論文執筆に関わる指導を行う。	2020年度開講せず。
OBBADL3	民俗学・文化人類学研究IIB	2	1.0	2					2年次生を対象とする中級セミナーの後半。学生各自が具体的な調査データに基づいて博士論文の全体構成を検討する。さらに、民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、博士論文の研究課題に即して他の地域や社会と比較考察した成果を発表する。	2020年度開講せず。
OBBADL4	民俗学・文化人類学研究IIIA	2	1.0	3					3年次生を対象とする上級セミナー。民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、博士論文の完成を目標として、学生各自が博士論文の研究課題およびその構成を発表する。博士論文の課題および概要について指導を行う。	2020年度開講せず。
OBBADL5	民俗学・文化人類学研究IIIB	2	1.0	3					3年次生を対象とする中級セミナーの後半。実際に論文を執筆しながらさらに研究課題を明確化し、博士論文を完成させる。民俗学・文化人類学領域全教員の出席のもと、参加者による討論を行う。	2020年度開講せず。

科目番号	科目名	授業方法	単位数	標準履修年次	実施学期	曜時限	教室	担当教員	授業概要	備考
OBBADL6	民俗学・文化人類学研究実習A	3	2.0	1	春C	応談		武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰, 木村 周平	1年次生を対象として、民俗学・文化人類学領域全教員による指導のもと、博士論文作成に向けてフィールドワークの方法論を実践的に学ぶ。実習に関わる事前学習会、フィールドの選定並びに予備調査に主体的に関わり、調査と研究の方法全般についてより高度な訓練を行う。	02DC76Lと同一。
OBBADL7	民俗学・文化人類学研究実習B	3	2.0	1	秋C	応談		武井 基晃, 徳丸 亜木, 中野 泰, 木村 周平	1年次生を対象として、民俗学・文化人類学領域全教員による指導のもと、博士論文作成に向けたフィールドワークの実践的遂行能力を養う。実習に関わる事前学習会、フィールドの選定並びに予備調査、本調査、事後学習会に主体的に関わることにより、特定地域のフィールドワークとその報告、フィールドワークの実務、およびフィールドワークの指導方法を学ぶ。研究テーマに即したレポートや論文の執筆を課す。	02DC76Mと同一。